

[第642回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和3年11月18日(木) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 産経新聞大阪本社8階 802会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎
たつみ 都志 鎌田 雅子
内田 透
萩原 章男 (書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

吉田 禎宏 安東 義隆
赤松 加枝子 藤川 貴央

4. 議題

1) 番組審議 『藤川貴央のDMZ (テーブルミュージックバーン)』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題1) 『藤川貴央のDMZ (デーブミュージックゾーン)』について、番組の企画意図と内容を説明し、番組を聴取した後審議に入った。

6. 審 議 内 容

社 側 「おとなの部屋にはこんなアルバムが一枚あってもいいんじゃないか！」
ジャンルにこだわらず素敵な音楽をお贈りする番組です。アーティスト特集、リクエスト特集、企画ものなど、毎週テーマによって構成が変わります。放送93回目の放送は昭和の日にちなみ、2005年4月に発売されたコンピレーションアルバム「昭和ダンスパーティー」の特集。
東京のレコード店のご主人が、近所の小料理屋を貸し切って気まぐれに開いていたのが「昭和ダンスパーティー」というイベント。下は1才から上は60代のマダムまでが踊るハチャメチャにバラエティに富んだこのイベント。
ここで流れる音楽を1枚のCDにしようと企画されました。アルバムに収録されているのはミッド昭和のチャチャやツイストそしてGS。この楽曲とともに、ラジオ大阪レコード室收藏の貴重な未CD化音源など、関連楽曲を加えて構成しました。昭和テイストのダンスパーティーをラジオでお楽しみいただきます。

委 員 番組では、普段から昭和時代を中心に楽曲が選定されており、昭和の日にちなむと言っても特別な構成になるわけではない。もちろん、昭和町を訪ねたり純喫茶の紹介があったりと昭和のノスタルジーに触れる情報があって、昭和テイストづくりの効果を求めている。楽曲は、1960年代生まれの私でも当時は幼すぎ、全く知らないものばかりだ。リスナーも同時代的に懐かしく聞く人もいれば、知らない曲を発見することが楽しみであったり、あるいは全く初めての曲ばかりで新鮮な思いを持って聞くなどさまざまではないだろうか。そう考えると、確かにそれぞれの時代やアーティストを表す良質な音楽を流しており、楽しみ方はリスナーそれぞれの感性や経験によって異なるし、それでいいのだと思うようになった。音楽だけでなく、オリンピックから大阪万博に向かう時代に、欧米の文化にあこがれて成長するぞと願う将来への期待感と、女性がより自由に生きていくことへの憧れなどに、すぐ手が届きそうな時代の勢い

というものを感じた。子供時代の感情や感動、テレビを前にした家族だんらんなど、音楽にとどまらない記憶をよみがえらせてくれるのも、この番組の良さではないか。リクエストに応えるなどリスナーとのコミュニケーションも大切にされているが、個性的な番組として、制作側が最後は「聞き手任せ」で突っ走るディープな番組であって欲しい。

委員 毎回の特集にこだわりを感じる。深夜にじっくりと音楽を聴く番組のコンセプトは共感ができる。リスナーにとってはノスタルジーを感じたり、新しい発見があったりするだろう。今回の特集に関して、知らない曲ばかりだったが、名前を聞いたことがあるアーティストがいたので、楽しめた。藤川アナウンサーの声には深夜帯にマッチしている。気になる点としては特集が昭和に偏りすぎている気がする。個人的には好きなのだが、もう少しジャンルや世代の幅が広がった方が良い。また、それぞれの曲が何年にリリースされた曲なのか、その時代背景まで踏み込んで説明が欲しかった。リピーターが多い番組のようなので、エンディングで次回予告を入れてもいいのでは。

委員 過去の放送特集を見ても、全て面白そう。興味をそそられる。今回特集されたものは知らない楽曲だったが、面白く聞かせてもらった。ディレクターの選曲が素晴らしく、知識が豊富で、マニアックさに驚いている。フリートークでは音楽とは関係ない話だったので、音楽に特化した解説が欲しい。ディレクターが楽曲について解説を行うコーナーを作ってはどうか。

委員 藤川アナウンサーの声が素敵。まずそこに惹かれる。内容について、懐かしいと感じる楽曲もあって楽しめたが、楽曲を構成するストーリーが聞き手に伝わり辛い。今回に関しては、アルバムから楽曲がピックアップされた趣旨を知りたいと個人的には感じた。フリートークでされていた昭和町の長屋の話はもう少し詳しく聞きたかった。全体としては22時という時間にもピッタリのプログラムだった。

委員 過去の放送リストをみたら、一概に”懐メロ番組”とも言えない。毎回コンセプトが違うのだと感じた。今回の選曲について、ベタな曲使われておらず、少し聞いたことあるな、という楽曲で構成されており、面白い番組だと感じた。フリートークは知らない情報や隠しネタもあって、マイナーな情報が面白かった。今の時代、リスナーはじっくり聞く番組を求めていると思うのでラジオ大阪はそのニーズにマッチしていると思う。ディープだがくどさが無く、良い番組。

委員 全体を通していい番組だと思う。過去の特集はバラエティに富み、カテゴリーにこだわらず特集が組まれている。曲を完奏させるために、1曲1曲の詳しい解説を行うのは難しいだろう。音楽は音楽として聞かせているので、フリートークは楽曲と関係のない話をしていても安心して聞く事ができる構成になっている。個人的には曲を完奏させる事が特に大事だと思う。これからも選曲とテーマを切り口が重要になってくるだろう。

社側 貴重なご意見、ありがとうございました。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

なし

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第642回大阪放送番組審議会議事録の要約)
「愛してラジオ大阪」内で放送
放送日 令和3年12月29日(水) 23時20分～23時30分
- ・「番組審議会だより」 (第642回大阪放送番組審議会議事録)
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。